

高齢者インフルエンザ予防接種について

- ★インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによって起こります。普通のかぜに比べて全身症状が強いのが特徴です。
- ★予防接種は、発病防止や気管支炎や肺炎などを合併し重症化することを防止するのに有効です。

..... 予防接種を受ける前に必ずお読みください

- ・ 予診票は、接種の可否を決める大切な情報です。正しい情報を医師にお伝えください。
- ・ 気にかかることや分からないことがあれば、担当の医師や看護師におたずねください。
- ・ 接種は義務ではなく、あくまでもご本人の意思に基づき接種を受けていただくものです。

予防接種を受けることができない人

- ① 体温が37.5℃以上の発熱がある人
- ② 重い急性疾患にかかっている人
- ③ インフルエンザの予防接種を受けて、アナフィラキシーというひどいアレルギー反応(※)を起こしたことがある
(※通常接種後30分以内に起きる、発汗・顔がはれる・ひどいじんましん・吐き気・吐く・声が出にくい・息が苦しいなどの症状)
- ④ 医師が予防接種は、不相当と判断した場合

予防接種を受ける前に、担当医師とよく相談しなくてはならない人

- ① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障がいなどの基礎疾患がある人
- ② 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発しんなどのアレルギーを疑う症状がみられた人
- ③ 過去にけいれん(ひきつけ)を起こしたことがある人
- ④ 過去に免疫状態の異常を指摘されたことがある人もしくは近親者に先天性免疫不全症の者がいる人
- ⑤ 間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器疾患がある人
- ⑥ インフルエンザ予防接種の成分または鶏卵、鶏肉、その他の鶏由来のものに対してアレルギーを疑う症状がみられた人

予防接種を受けた後の注意事項

- ① 接種後30分間は、急な副反応が起こることがあります。医師とすぐ連絡が取れるようにしておきましょう。
- ② 副反応の多くは、24時間以内に出ます。特にこの間は、体調の変化に注意しましょう。
- ③ 入浴は、差し支えありませんが、注射した部位を強くこすらないでください。
- ④ 激しい運動や大量の飲酒は、避けてください。

インフルエンザ予防接種の副反応

予防接種の注射の跡が、赤みを帯びたり、はれたり、痛んだり、発熱、寒気、頭痛、全身のだるさなどの症状が見られることもあります。非常にまれですが、ショックやじんましん、呼吸困難などが現れることがあります。

予防接種を受けた後、接種した部位が痛みや熱をもってひどくはれたり、全身のじんましん、繰り返す嘔吐、顔色の悪さ、低血圧、高熱などが現れたら、すぐに医師の診察を受けてください。

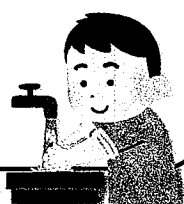
予防接種健康被害救済制度について

高齢者インフルエンザ定期接種によって、健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が生じ、医療機関での治療が必要になったり、障害が残ったりした場合に、その健康被害が接種を受けたことによるものであると厚生労働大臣が認定したときには、予防接種法に基づく救済（医療費・障害年金等の給付）が受けられます。

インフルエンザの予防のために 普段から日常生活に気を配ることが有効です。

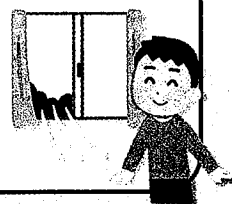
手洗い

- ・帰宅時や咳・くしゃみで口を押えた後は、しっかりと手を洗いましょう。
- ・石けんをよく泡立てて、指先から手首まで丁寧に洗いましょう。



換気、適度な湿度

- ・空気が乾燥すると、喉の防御機能が低下し、インフルエンザにかかりやすくなります。
- ・適度な湿度（50～60%）を保ちましょう。
- ・適度な換気を行いましょう。



体調管理

- ・十分な栄養・休養・睡眠を心がけましょう。



人混みを避ける

- ・特に流行時は人混みをなるべく避けましょう。
- ・やむを得ず外出して人混みに入る場合は、不織布製マスクを着用しましょう。



※わからないことがありましたら、接種医療機関または下記までお気軽にご相談ください。

問合せ先／米沢市健康課 健康企画担当 TEL 0238-24-8181